

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

2 調査項目

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| (1) 暮らしの変化について* | (8) 生涯学習について |
| (2) 県政への要望について* | (9) 消費生活に関する意識について |
| (3) 日常生活について* | (10) 県民の人権意識について |
| ア 文化・芸術活動について | (11) ケアラーについて |
| イ スポーツ活動について | (12) 食に関する意識と実践について |
| ウ 住んでいる地域について | (13) 食の安全・安心について |
| エ 社会貢献活動について | (14) 食品ロスの削減について |
| (4) 地域のつながりについて | (15) 公共交通について※ |
| (5) 防災対策について | (16) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| (6) 栃木県への愛着と誇りにについて | (17) 犯罪と治安対策について |
| (7) 男女平等意識について | (※印は時系列調査、※印は新規調査) |

3 調査設計

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 2,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収又はインターネット回収の選択式） |
| (6) 調査時期 | 令和6（2024）年6月19日～7月16日 |

4 調査機関

株式会社東京商工リサーチ 宇都宮支店

5 回収結果

回収数 1,271件 (うち郵送回収数848件、インターネット回収数423件)

回収率 63.6% (うち郵送回収率42.4%、インターネット回収率21.2%)

6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は6人、女性18～19歳の回答者は7人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性/年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が25人と少ないため、図表化していない。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left(\begin{array}{l} b = \text{標本誤差} \quad N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} \quad n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (P)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
基数 (n)					
1,271 人	±2.38%	±3.17%	±3.64%	±3.89%	±3.97%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

<注/この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,271人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.89%以内 (56.11%～63.89%) である」とみることができる。